多民族社会マレーシアにおける移民と社会統合

東南アジア近隣諸国からの移民・就労者の事例に即して

日　時：2019年12月21日（土）13：00～16：50　　**場　所**：立教大学池袋キャンパス
主　催：日本マレーシア学会／JSPS科研費16H03317

趣旨説明

3地域の視角からマレーシアの外国人労働者の実態に迫る

篠崎 香織
北九州市立大学

マレーシアは、世界でもっとも外国人労働者の比率が高い国の1つとして知られています。2019年のマレーシア政府による統計では、外国人人口はマレーシアの総人口の約10パーセントを占めています［Department of Statistics Malaysia, 2019］。また、非正規滞在者と難民高等弁務官事務所（UNHCR）の難民認定者を加えると、外国人人口はマレーシアの総人口の20パーセントに達するという推計もあります［World Bank, 2019］。外国人労働者はマレーシアの経済を支える欠かせない存在になっていることが、マレーシア人のあいだでも認識されてきています。

実際に、私たちがマレーシアに滞在したり調査をしたりしますと、外国人労働者の存在を身近に感じます。外国人労働者が、どこからいかにしてマレーシアにやって来たのか、またマレーシアでどのように居場所を確保しているのかなど、興味・関心を惹かれるところが多々あります。しかしマレーシア研究者にとっては、言語上の制約があったり、外国人労働者が持つ出自国とのつながりも含めた社会的・文化的な文脈に不案内であったりするために、外国人労働者の実態に迫ることがなかなか難しいという状況があります。

本パネルでは、周辺の東南アジア諸国、具体的にはインドネシア、フィリピン、ミャンマーからマレーシアにやって来た移民や就労者について、それぞれの地域を専門とし、またそれぞれの地域からの移民や就労者について研究している3人にご報告いただき、マレーシアにおける外国人労働者の実態に迫ります。インドネシア、フィリピン、ミャンマーの3か国からの移民および就労者が、マレーシアへの出稼ぎや移住をどのように捉え、どのようにマレーシア社会に居場所を確保しているのか、またこれら外国人労働者はマレーシアに定住していくのか、それとも帰国するのか、あるいは第三国に移住するのかなどについてご報告いただきます。

第1報告では、西芳実さんにインドネシアからの移民および就労者について報告いただきます。第2報告では、細田尚美さんにサバ州コタキナバル市を中心にフィリピン人キリスト教徒の事例を報告いただきます。第3報告では、水野敦子さんに半島部マレーシアのクアラルンプールやペナンといった都市部におけるミャンマーからの移民や就労者の事例を報告いただきます。

3人のご報告を受けて、山本博之さんに、これら外国からの移民や就労者の存在がマレーシア社会にどのような影響をもたらし得るのかについてコメントいただきます。マレーシアの現代史においては、移民

と社会統合が１つの大きな課題でした。その課題に対応するためにマレーシアではどのような仕組みに基づいて社会統合が行われてきたのかを整理していただいたうえで、外国人労働者がマレーシアの社会統合にどのような影響をもたらし得るかについてもコメントいただきます。そのコメントを受けて報告者の方がたから一度お答えいただいたうえで、フロア全体に議論を開いて、全体で討論します。

参考文献

Department of Statistics Malaysia. 2019. “Press Release: Demographic Statistics Third Quarter 2019, Malaysia”. 14 November 2019, https://www.dosm.gov.my/v1/index.php?r=column/pdfPrev &id=YkdwYkZYOVQ5WFJ4dXhEelNpbGRmZz09.

World Bank. 2019. “Malaysia: Estimating the Number of Foreign Workers (A report from the Labor Market Data for Monetary Policy task)”. March 28, 2019. http://documents.worldbank.org/curated/en/953091562223517841/pdf/Malaysia-Estimating-the-Number-of-Foreign-Workers-A-Report-from-the-Labor-Market-Data-for-Monetary-Policy-Task.pdf.

報告１

マレーシアにおけるインドネシア人移民

西 芳実
京都大学

このパネルでは、インドネシアからの移民、フィリピンからの移民、ミャンマーからの移民を取り上げていますが、このなかでもインドネシアからの移民というのは、期間の点でも量や分野の点でも非常に規模が大きいものになります。私の今日の報告では、主にマレーシアにおけるインドネシア人移民全体の位置付けや流れがわかるように、話題提供のつもりで資料を作成しています。

マレーシアにおけるインドネシア移民の社会統合を考えるうえで、対象として検討すべきインドネシアに出自を持つ人びとは大きく３つに分けられます。１つは英領期以前に流入してきた移民者です。現在いる人たちという意味では、その移民者の子孫たちです。２つ目が、外国人労働者として滞在している人たちです。３つ目が、留学や観光、医療など、マレーシアで提供されるサービスを短期で享受するために来る人たちです。この３種類がマレーシアにいるインドネシア移民たちだと言えると思います。本日主に考えるのは、これらのうち３番目のカテゴリーをはずした人たち、すなわち英領期の移民者の子孫たちと外国人労働者たちです。

１．インドネシア人移民のマレーシア国民化

英領期の移民の子孫たちは、移民としてマラヤにやって来て、それが脱植民地化とともにマレーシアの国民になっていくというプロセスが起こりました。域外からの人口流入はそれ以前にもありましたが、イギリスによる植民地化が進んだ19世紀末ごろになると、当時オランダ領東インドと呼ばれていたインドネシアのジャワ、スマトラ、スラウェシなどから、イギリス領のマラヤに移住して、商業、農地悔恨、農園労働といった分野で移住して生活をする人たちが続々と流入しました。

これらの人たちは、英領マラヤの植民地統治におい